

八ヶ岳美術館運営協議会

令和 6 年度上半期実績報告

八ヶ岳美術館館長 小泉悦夫

令和 6 年度上半期（4 月—9 月）は企画展「没後 40 年 建築家村野藤吾と八ヶ岳美術館」（4 月 1 日—6 月 2 日）、「国立科学博物館へ一括寄贈 林正敏氏鳥類資料緊急展示 世紀を超えた鳥類標本の全容」（6 月 8 日—7 月 7 日）、「画文集出版記念水彩画展 片田好美 森と生きる」（7 月 13 日—9 月 23 日）の春夏 3 企画展を行い、いずれも前年を上回る好調な実績でした。

村野藤吾展は村野が手掛けた美術館関係 5 施設に絞った展示で、3D データや VR を駆使して制作した八ヶ岳美術館自前の初模型や映像を取り入れ、視覚的にも注目されました。大手紙全国版で「美術館に見る先駆性」と八ヶ岳美術館が紹介されるなど建築ブームもあって 3 回の講演会は行列ができるほど混雑し、立見席もでるほどでした。

全国的に注目された林正敏氏鳥類資料の国立科学博物館一括寄贈緊急展示「世紀を超えた鳥類標本の全容」（7 月 7 日まで）が最後の 1 週間で 708 人と駆け込み入館者が行列を作り、NHK 全国ニュースで見てわざわざ駆けつけたという北海道の若い女性や九州、京都など遠来の入館者も多く、愛鳥家や専門家も長時間滞在してじっくり見て林氏の解説に耳を傾ける入館者が目立ちました。

また四半期の大部分を占めた画文集出版記念水彩画展「片田好美 森と生きる」（7 月 13 日—9 月 23 日）も「最後の展覧会になるかもしれない」と片田ファンが多く詰めかけ、特に作家グッズのレプリカや絵葉書を買求め売店売り上げを押し上げました。夏休みだった中学生以下の子供も 130 人と多めでした。

総収入は 6,480,802 円と昨年の約 2 倍（昨年比 199%、3,221,592 円増）でした。

内訳は、有料入館者数 6,612 人（大人 6,382 人、子ども 230 人）で昨年対比 113%、（2,182 増）。コロナ禍前 10 年間平均と比べても 144.3%（2,031 人増）でした。

総入館者数は 7,813 人（昨年対比 149%、2,625 人増）。コロナ禍前 10 年間平均と比べても 140.3%（2,243 人増）でした。

総入館料は 3,272,410 円で昨年対比 151%（1,108,360 円増）

売店売上は 2,336,525 円で昨年対比 233%（1,333,573 円増）でした。

また、上半期の主な出来事は以下の通りでした。

- ① 近代建築物緊急電点調査（長野県）の報告会が9月10日松本市で開かれ、国の登録有形文化財選定建築物第1次リスト（915件）を絞り込んだ第2次リスト（30件）に村野藤吾設計の八ヶ岳美術館が入りました。
- ② 八ヶ岳美術館初の燻蒸作業が9月24日～25日収蔵庫ABと企画展示室で行われました。

令和7年度企画展概要

「大正の東京アトリエ村を彩った芸術家たち 鈴木金平と清水多嘉示」

4月5日～6月22日（79日間）

鈴木金平（すずき きんぺい／1896－1978）は、大正・昭和と清水多嘉示と同時期に活躍した三重県出身の洋画家で、白馬会葵橋（あおいばし）洋画研究所で学んだことから、岸田劉生（りゅうせい）と親交を持ち、大正元年にヒュウザン会結成に参加。中村彝（つね）に師事し1926（大正15）年には彝の代表的著作である『藝術の無限感』の編集を担当するなど、清水多嘉示が代用教員時代に敬慕して作品への意見を求めて通った師である中村彝の活動を支援しました。鈴木金平の作品30点を中心に、清水多嘉示が描いたアトリエ村のスケッチや風景絵画、彝の弟子のひとりである宮芳平の作品を展示。清水が画家として活躍した大正のアトリエ村で活躍した芸術家たちの作品をご紹介します。

「堀之内聖展」

6月28日～9月15日（80日間）

堀之内聖（ほりのうちせい/Sei Horinouchi）は、2014年原村生まれ、現在は小学5年生の芸術家です。長野県原村で開催されている「星空の映画祭」ちびっこ実行委員を務め、2024年8月開催の星空の映画祭では「星空の映画祭を観るオオカミ」がメインビジュアルに起用されています。

3歳のとき、猛獣と恐竜に恋をした聖さんは保育園年中のときに絵を描き始め、2020年5月に茅野市で開催している「アトリエもも」に出会い、さまざまな画材を自由に使うことに喜びを見出して制作しています。同年4月茅野市民館で開催された「Sketch!展」にて「かまいたアート」出展。2023年ペンキ画家SHOGEN（ショーゲン）と茅野市でふたり展を開催し、「中村キースヘリング国際児童コンクール」にて北杜市長賞受賞。2024年2月インドの第9回国際児童絵画コンクール Creative Kids India にてジュニア部門金賞。急成長を遂げている堀之内さんの新作とこれまでに描いた作品を展示します。会期中は滞在制作やワークショップも予定しています。

「村山理世 写真展」（地域おこし協力隊活動報告企画）、「行田美香 植物画展」

9月20日～12月7日（79日間）

1.「村山理世 写真展」（地域おこし協力隊活動報告企画）：村山理世は1983年、三重県に生まれました。京都造形芸術大学芸術学部環境デザイン学科中退後、ファッションフォトグラファーのアシスタントに就き、2011年にフォトグラファーとして独立、2022年に富士見町信濃境に移住しました。

依頼者の家族、友人の遺品や、大切にしていたが失いつつある道具の写真、すなわち「物の遺影」の撮影活動を展開しています。写真の撮影を通して、生物にとって不可避の運命である死に向き合うこと、先立たれた人たちへのケアを行うことを目標としています。撮影した写真は同じ富士見町の木工職人の手で額装されています。

特定の個人や集団に使い古された道具はたとえ大量生産品であっても、使い込んでいるうちに固有の汚れ方・傷つき方をします。固有の汚れ方をして複製不可能になった物は持ち主本人にとってかけがえのない価値があり、この世に唯一無二の事物です。そうした理念の上に立ちつつ、村山は持ち主や遺族から道具にまつわるエピソードを聞きながら撮影を行い、長年道具に刻み込まれてきた唯一無二の過去を再認識させようとしています。

2.「行田美香 植物画展」：行田美香は、長野県原村のセロリ農家の家に生まれた植物画家です。18歳で上京、2012年よりフランスのフローリストの巨匠として知られるクリスチャン・トルチュ氏に師事しました。トルチュの「あらゆる自然を分け隔てなく愛し、美しく魅せるという精神」に大きな影響を受けて、2021年、mika gyotaとして植物画の制作を開始。フラワーアレンジメントでは表現しきれない季節の植物の現在性を植物画の世界に絵画に表現しています。花だけではなく野菜や果実や森の木々などより多くの植物を組み合わせて調和させながら、丁寧に描き、自然の楽しさや美しさを水彩画に表現しています。本展では四季ごとの組作品となっている植物画の連作を展示し、行田美香の豊かな調和を持つ作品世界をご紹介します。

「西新太と子どもたち展」

12月13日～3月22日（94日間）

西新太（にし・あらた）は、1983年横浜市生まれ、原村育ちの画家で、2008年愛知県立芸術大学美術学部油画科卒業したのち、原村に戻り制作を続けています。2002年 愛知県立芸術大学美術学部油画科入学。長野県原村拠点のバンド OGRE YOU ASSHOLE（オウガ・ユー・アスホール）のドラマーとして在学中から活躍。各地の音楽ライブに出演し、アルバムのジャケットも手掛けました。2004年、突然の脳出血で1年半の大学休学。復学後は、絵筆を左手に持ち替えて再び制作を始めます。西は、「宇宙の根源エネルギー=愛」をテーマに絵を描いているといい、全ての出会いや運命、全ての生命=奇跡=愛=宇宙、そこに等しく流れる暖かな力を絵画に表現します。絵の具を垂らし、かすれた筆触の動きが重なり、ときにはカラー Sprey を吹きつけたり、落ち葉を貼るなど、即興的に色や線を使って描き、絵の具を含めた材料からなる色彩やエネルギーがその絵画のなかで出会いを繰り返し広げます。また毎月、原村内のこひつじ幼稚園で子どもたちと制作をする「マイケルの美術の時間」を開催し、2021年にはいっしょに制作した作品を原村図書館にて展示しました。本展では、近作とともに、子供たちとの絵画制作の時間の楽しみが伝わる共同制作の作品をあわせて展示いたします。

「建築と喪失。そのまなざしの先にあるもの」

（2026年3月末～6月中旬開催予定）

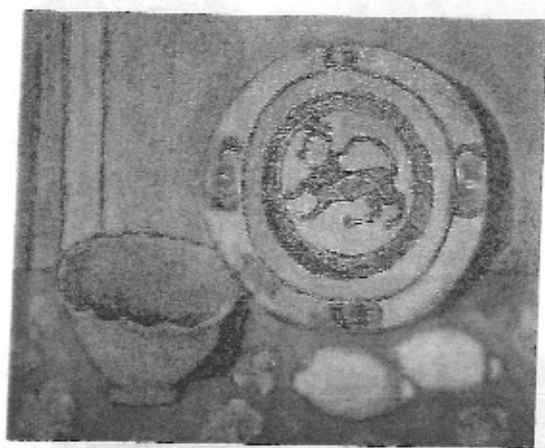
写真家の村野敦子は、建築家であった祖父・村野藤吾が建築解体される前に連絡を受ける機会が多く、その写真記録を一つのライフワークとしてきました。阪神淡路大震災で村野の自邸が倒壊した際、そこから引き出された家財のなかに彫刻家エミリオ・グレコの作品集をみつけます。土にまみれ、ページは破け、ひどく破損した本を手にしたときに「地震が本を彫刻したようだ」と感じ、建築撮影の意味が「喪失」から「経験してきた『出来事としての村野建築』」へと大きく変化したといいます。日本の都市の新陳代謝は50年といわれ、時代と共に人の手によって解体される村野作品も増えてきています。この時間軸は村野敦子の年齢とも重なります。村野自身が孫の世代として、この建築の時間軸と向き合って制作した写真作品と村野建築を利用したインスタレーション（写真の空間展示）をご紹介します。

図面展「村野藤吾 八ヶ岳美術館の着想と制作プロセス」展

（2026年3月末～6月中旬開催予定）

村野藤吾は佐賀県東松浦郡満島村（現・唐津市）に生まれ、早稲田大学を卒業後、渡辺節建築事務所をへて1929年に村野建築事務所を開設し、数々の名建築を手がけた日本を代表する建築家です。八ヶ岳美術館は、彼の晩年の美術館建築の代表作となっています。この美術館を構想した際の最初のスケッ

チと現存する建築は異なった形をしており、プランの変更がありました。その意図はどのようなものであったのでしょうか。八ヶ岳美術館のプラン変更過程に焦点をあてながら、建築家が実際の建築を作り上げてゆく創造プロセスに迫ります。



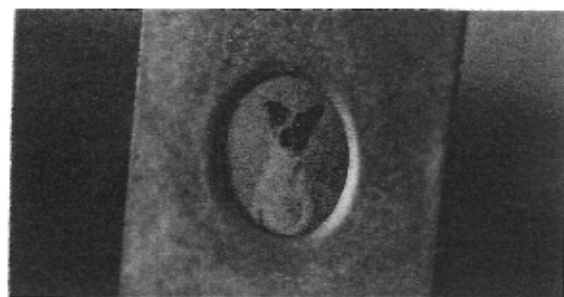
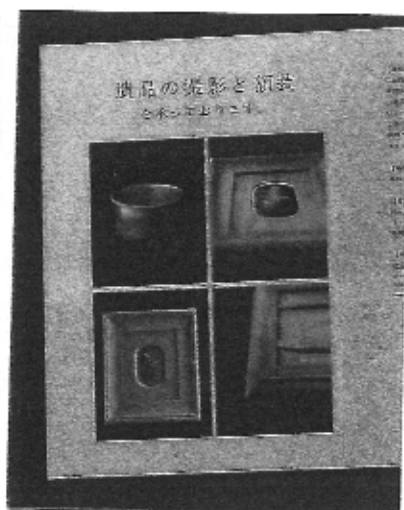
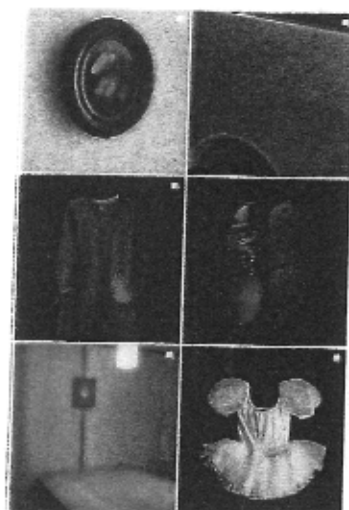
鈴木金平 静物画 個人蔵



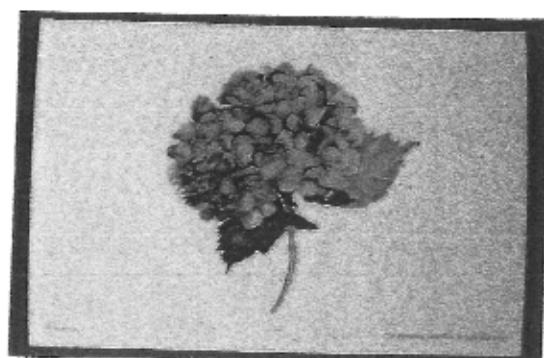
鈴木金平 哀哀の世の夢 舞台背景画 個人蔵



蟹之内型



村山理世



山田美香 植物画

令和7年度 ハケ美術館展覧会 年間予定

月	コレクション展		日数	企画展示室1	企画展示室2
4	清水多嘉示 彫刻・絵画	津金雀仙 書	79日間	鈴木金平と清水多嘉示 洋画展 4/5(土)～6/22(日) ※ブンガボン燻蒸 4月1日(火)～4月2日(水) ※屋根施工	
5					
6					
7	考古資料		80日間	堀之内聖 絵画展 6/28(土)～9/15(月・祝) ※屋根施工	
8					
9					
10			79日間	第1室 村山理世 写真展 第2室 行田美香 植物画展 9/20(土)～12/7(日) ※屋根施工	
11					
12					
1			94日間	西新太と子どもたち展 12/13(土)～令和8(2026)年3/22(日) 第1室 村野敦子建築写真展 第2室 村野藤吾図面展 令和8(2026)年3/28(土)～6月中旬	
2					
3					

開館日：336日

休館日：29日 展示替え

年末年始

4/1(火)～4/4(金)、6/23(月)～6/27(金)、9/16(火)～9/19(金)

12/8(月)～12/12(金)、2026年3/23(月)～3/27(金)

12/29(月)～1/3(土)

23日

6日